

コクサイ - MUGCTラスト -

# 短期高利回り社債ファンド 2013-04 円建 円高ヘッジ・円安追随型

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／単位型(円建)

## 償還交付運用報告書

作成対象期間 第5期

(2017年5月1日～2018年4月30日)

その他記載事項

償還運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

サブ・ファンドの償還運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ  
インベスターサービス銀行S.A.**

代行協会

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券  
株式会社**

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、コクサイ - MUGCTラスト - 短期高利回り社債ファンド2013-04 円建 円高ヘッジ・円安追随型(以下「サブ・ファンド」といいます。)は、2018年4月27日(終了日)に終了しました。

サブ・ファンドの投資目的は、新興国を含む世界中の会社が発行する、多様な通貨建の世界の高利回り社債(ただし、日本企業が発行したものおよび円建のものを除きます。)に主として投資する、コクサイ - MUGCTマスター・トラスト - グローバル短期高利回り社債ファンド3(以下「投資先ファンド」といいます。)への投資を通じて、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指すことでした。更に、保有する米ドル建資産について、派生商品等を活用して為替戦略を構築し、円高(米ドル安)時の為替損失の低減を図りながら、円安(米ドル高)が進行した場合の追加的収益の獲得を目指していました。最終計算期間である第5期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、第5期の運用状況をご報告申し上げます。

ご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。

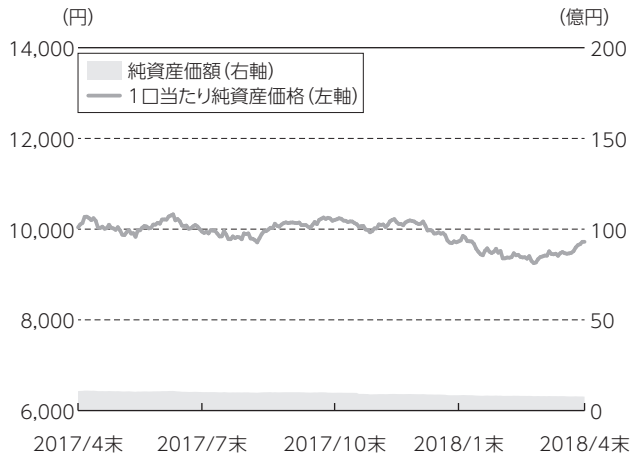
第5期末	
1口当たり純資産価格	9,720円
純資産価額	768,025,445円
第5期	
騰落率	-3.18%
1口当たり分配金合計額	該当事項はありません。

(注1) 第5期末における1口当たり純資産価格および純資産価額は、終了日付で公表されている1口当たり純資産価格および純資産価額の数値を記載しています。以下同じです。

(注2) 騰落率は、1口当たり純資産価格に基づき計算しています。以下同じです。

## 《運用経過》

### 【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】



第4期末の1口当たり純資産価格:	10,039円
第5期末の1口当たり純資産価格:	9,720円
第5期中の1口当たり分配金合計額:	該当事項はありません。
騰落率:	-3.18%

(注1) サブ・ファンドは分配を行わない方針であるため、課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を記載していません。以下同じです。

(注2) サブ・ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) サブ・ファンドにベンチマークは設定されていません。

(注4) 上記表における第4期末の1口当たり純資産価格は、財務書類における数値を記載しており、取引日(評価日)付で公表されている1口当たり純資産価格の数値と一致しない場合があります。

### ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

- ・ 高利回り社債からの利息収入の積み上げが、受益証券1口当たり純資産価格の上昇要因となりました。
- ・ 前期末から当期末にかけて、国債利回りの上昇等を受け、高利回り社債の価格が下落したことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・ 前期末から当期末にかけて、円高(米ドル安)が進行したこと等を受け、派生商品等を活用した為替戦略がマイナスとなったことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・ サブ・ファンドの管理報酬等や投資先ファンドに係る報酬等の費用を支払ったことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・ 為替ヘッジコスト(金利差相当分の費用)や為替に係る派生商品のコストが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。

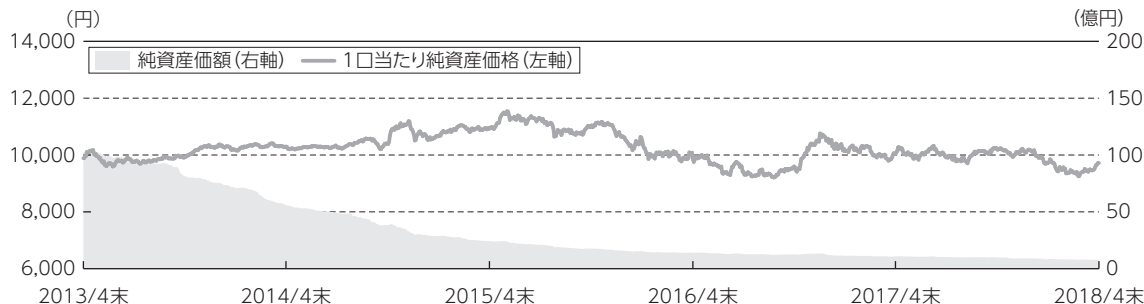
【費用の明細】

項目	項目の概要	
管理報酬(副管理報酬を含みます。)および管理事務代行報酬	純資産価額の年率0.13%	管理報酬(副管理報酬を含みます。)は、信託証書に定める管理会社としての業務の対価として、管理会社に支払われます。管理事務代行報酬は、管理事務代行契約に基づく管理事務代行業務の対価として、管理事務代行業社に支払われます。
保管報酬	合意済の取引手数料の支払、適切な裏付けのある立替費用の払戻しを受けます。	保管報酬は、保管契約に基づく保管業務の対価として、保管会社に支払われます。
投資顧問報酬	純資産価額の年率0.42%	投資顧問報酬は、投資顧問契約に基づく投資顧問業務の対価として、投資顧問会社に支払われます。
受託報酬	純資産価額の年率0.01% (最低年間10,000米ドル)	受託報酬は、信託証書に基づく受託業務の対価として、受託会社に支払われます。
販売報酬	純資産価額の年率0.60%	販売報酬は、投資者からの申込または買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、日本における販売会社に支払われます。
代行協会員報酬	純資産価額の年率0.10%	代行協会員報酬は、受益証券1口当たり純資産価格の公表を行い、また受益証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を日本における販売会社に送付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
その他の費用(当期)	—	サブ・ファンドの設立および終了の費用、投資関連費用、運営費用(弁護士に支払う開示書類の作成・届出業務等)に係る報酬および監査人等に支払う監査に係る報酬等)、ならびにその他すべての管理事務費用として支払われます。

(注1)各報酬については、有価証券報告書に定められている料率または金額を記載しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。なお、サブ・ファンドの当期末における財務書類上の純資産価額は0円であることから、当期のその他の費用の金額をサブ・ファンドの当期末の純資産価額で除して100を乗じた比率は表示していません。

(注2)各項目の費用は、サブ・ファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】



	第1期末 2014年4月末日	第2期末 2015年4月末日	第3期末 2016年4月末日	第4期末 2017年4月末日	第5期末 2018年4月末日
1口当たり純資産価格 (円)	10,294	10,963	9,854	10,039	9,720
1口当たり分配金額 (円)	-	-	-	-	-
騰落率 (%)	2.94	6.50	-10.12	1.88	-3.18
純資産価額 (円)	5,629,447,501	2,432,151,860	1,396,993,988	1,075,747,378	768,025,445

(注1) サブ・ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

(注2) 上記表における第1期末から第4期末の1口当たり純資産価格および純資産価額は、財務書類における数値を記載しており、取引日(評価日)付で公表されている1口当たり純資産価格および純資産価額の数値と一致しない場合があります。

【投資環境について】

当期の高利回り社債市場は、プラスのリターンとなりました。

期首から2017年10月下旬にかけては、米国企業の業績が概ね堅調であったこと等を背景にスプレッド(国債に対する利回り差)が縮小したこと等から同市場は上昇しましたが、その後は上昇要因と下落要因が入り混じる中、一進一退の展開となり、2017年11月上旬から期末にかけての同市場は概ね横ばいとなりました。

なお、当期において、国債利回りの上昇等を受け債券価格が下落したことはマイナスに影響したものの、利息収入の積み上げ等がプラスに寄与し、市場はプラスのリターンとなりました。

【ポートフォリオについて】

投資先ファンドでは、信託期間終了前に満期を迎える短期の債券に投資を行い、当該債券を償還まで保有することを基本戦略とし、信託期間終了時の金利変動リスクの低減を図りました。

期中においては、投資先ファンドは、国・地域別では米国を高位の組入れとしました。セクター別では、消費財(非市況)や金融会社、通信等への投資比率が高めとなりました。格付け別では、BB格やB格等への投資のほか、投資適格債への投資も一部行いました。その結果、テクノロジーセクター内の一部の銘柄で価格上昇が見られたこと等が受益証券1口当たり純資産価格にプラスに寄与しました。

一方、サブ・ファンドの管理報酬等や投資先ファンドに係る報酬等の費用を支払ったこと等が、受益証券1口当たり純資産価格にマイナスに影響しました。

サブ・ファンドでは、期を通じて派生商品等を活用した為替戦略を構築した結果、円高(米ドル安)が進行したこと等が、受益証券1口当たり純資産価格にマイナスに影響しました。

【分配金について】

該当事項はありません。

### 《今後の運用方針》

該当事項はありません。

### 《お知らせ》

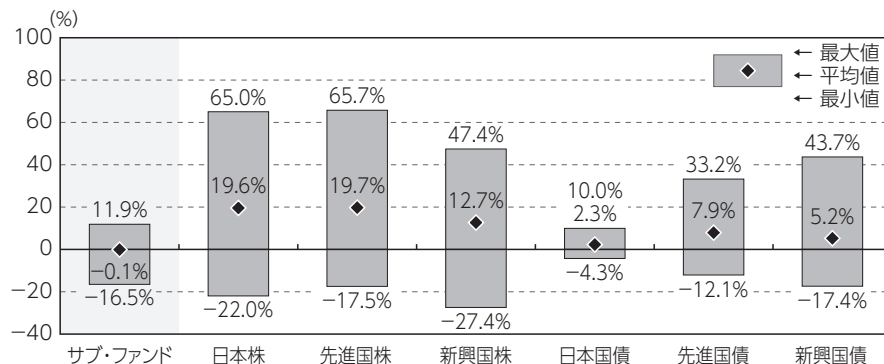
サブ・ファンドは、設定時からの予定通り、2018年4月27日に終了しました。償還金は、日本における販売会社を通じて2018年5月16日に受益者のみなさまにお支払いしました。

## 《サブ・ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／単位型	
信託期間	サブ・ファンドは、2013年4月16日から運用を開始し、2018年4月27日に終了しました。	
運用方針	サブ・ファンドの投資目的は、新興国を含む世界中の会社が発行する、多様な通貨建の世界の高利回り社債(ただし、日本企業が発行したものおよび円建のものを除きます。)に主として投資する投資先ファンドへの投資を通じて、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指すことでした。更に、保有する米ドル建資産について、派生商品等を活用して為替戦略を構築し、円高(米ドル安)時の為替損失の低減を図りながら、円安(米ドル高)が進行した場合の追加的収益の獲得を目指していました。	
主要投資対象	サブ・ファンド	コクサイ - MUGCMaster・トラスト - グローバル短期高利回り社債ファンド3
	コクサイ - MUGCMaster・トラスト - グローバル短期高利回り社債ファンド3	新興国を含む世界中の会社が発行する、多様な通貨建の世界の高利回り社債(ただし、日本企業が発行したものおよび円建のものを除きます。)
サブ・ファンドの運用方法	ケイマン諸島籍の投資信託である投資先ファンドに投資することにより運用しました。	
分配方針	受益者に対する分配は原則として行われな方針でした。	

### (参考情報)

#### ●サブ・ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(出所) 指数提供会社のデータを基にアンダーソン・毛利・友常法律事務所が作成

※ 全ての資産クラスがサブ・ファンドの投資対象とは限りません。

※ サブ・ファンドの運用開始日が2013年4月16日であるため、サブ・ファンドについては2014年4月から2018年4月の、また他の代表的な資産クラスについては2013年5月から2018年4月の5年間の、各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、サブ・ファンドの騰落率の計算における各月末の受益証券1口当たり純資産価格については、取引日(評価日)ベースの数値を用いています。

※ このグラフは、サブ・ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

#### <各資産クラスの指数>

日本株 … 東証株価指数(TOPIX)(配当込)

先進国株 … MSCI-KOKUSAI指数(配当込)(円ベース)

新興国株 … MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)(円ベース)

日本国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(日本)(円ベース)

先進国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド

※新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

## 《ファンドデータ》

### 【サブ・ファンドの組入資産の内容】

該当事項はありません(2018年4月27日現在)。

### 【純資産等】

第5期末	
純資産価額	768,025,445円
発行済口数	79,012口
1口当たり純資産価格	9,720円

(単位:口)

第5期中		
販売口数	買戻口数	発行済口数
0	28,141	79,012
(0)	(28,141)	(79,012)

(注1) ( )の数は本邦内における販売、買戻しおよび発行済口数です。

(注2) 第5期中の買戻口数および第5期末の発行済口数は、サブ・ファンドの終了日における償還前の受益証券買戻口数および受益証券発行済口数であり、償還後の口数を記載した財務書類の数値とは異なります。

**【投資先ファンドの概要】(2017年5月1日～2018年4月27日)**

**コクサイ – MUGCマスター・トラスト – グローバル短期高利回り社債ファンド3**

● 1口当たり純資産価格の推移

コクサイ – MUGCマスター・トラスト –  
グローバル短期高利回り社債ファンド3



● 投資先ファンド保有銘柄情報

該当事項はありません(2018年4月27日現在)。

● 投資先ファンド費用の明細 (2017年5月1日～2018年4月27日)

項目	項目の概要
受託報酬	投資先ファンドの純資産価額の年率0.02% (最低年間10,000米ドル)
投資運用報酬	投資先ファンドの純資産価額の年率0.42%
その他の費用	—

(注)各報酬については、投資先ファンドの英文目論見書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。なお、投資先ファンドの当期末における財務書類上の純資産総額は0米ドルであることから、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率は表示していません。

● 資産別配分

該当事項はありません  
(2018年4月27日現在)。

● 国・地域別配分

該当事項はありません  
(2018年4月27日現在)。

● 通貨別配分

該当事項はありません  
(2018年4月27日現在)。